



【今年で開設6周年！京都測定所をよろしくお願ひします！】

会員のみなさま、ご支援くださっているみなさま。

2018年5月で、当測定所も開設6周年を迎えることになりました。

日々、測定にたずさわって感じるのは、まだまだ汚染が続いているなという実感です。

去年測定した測定結果を見ても、干し柿がセシウム合算で約55ベクレル/kg、大豆が約30ベクレル/kg、静岡県浜松市の土壌ですら約23ベクレル/kgという汚染がありました。

地域の測定所では、福島県産以外の玄米や胚芽米から、微量の放射性セシウムが検出されたという情報も寄せられています。

確かに、去年の秋に行った『お米測定プロジェクト』でも放射能を検出したものはなく、食品の汚染度は低くなってきているとは感じますが、油断できません。今年は、いよいよ8000ベクレル/kg以下の汚染土壌のリサイクルが本格化し、汚染のばらまきが始まります。食品の放射能検査の縮小も進められようとしています。むしろこれから、低線量・長期被曝の影響が深刻化していくのではないかとこの予感すらしています。

原発の怖さ、事故への不安、国民世論は一貫して原発反対が多数ですが、日本政府・経済界は再稼働と原発輸出をあきらめないようです。広島高裁判決や関電の老朽原発廃炉など、良い方向も見えてきましたが、まだまだこれからです。

だからこそ、汚染の事実を測り続けること、記録に残すこと、知らせることが、京都・市民放射能測定所の大切な役割だと考えています。

ぜひ、よりいっそうのご支援をお願いいたします。

2018年1月17日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利

会報第10号の内容

【2面】11月4日第5回測定所まつり『放射線の人体への影響を考える』報告

【3～4面】落合栄一郎さん、山田耕作さんの講演。本行忠志さんのレポートを紹介

【5面】気になる測定結果 ①九州産乾燥原木しいたけ ②福島産大豆

【6面】新米測定プロジェクトの報告 測定所からのお願い